

# 第1編 序論

## 第1章 計画策定の背景

### 第1節 策定の趣旨

本市は、都心から60km圏内に位置する、人口約8万8千人の都市です。九十九里平野南部の温暖な気候と天然資源に恵まれ、農・商・工のバランスが取れたまちとして発展してきました。

その過程で市は、目指すべき将来都市像を示し、これを実現するための分野ごとの施策・事業を体系的にまとめた総合計画を策定し、各時代に対応した市政運営に取り組んできました。平成13(2001)年に策定した「茂原市総合計画」では、将来都市像を「ゆたかなくらしをはぐくむ『自立拠点都市』もばら」とし、少子高齢化や高度情報化、地方分権の進展など、大きな時代の変化に対応しつつ、個性ある地域の発展と魅力ある都市の形成を目指したまちづくりを進めてきたところです。

こうした中、平成28(2016)年4月1日、住民自治に基づく市政運営を進めていくため、まちづくりの担い手である市民等、市及び議会が共有する、基本的なルールを定めた「茂原市まちづくり条例」が施行されました。同条例では「市は、基本構想、基本計画及び実施計画からなる総合計画を策定し、まちの将来像を描くとともに、地域の様々な資源を有効に活用し、その実現を図るもの」とされました。

そしてこのたび、現行計画が令和2(2020)年度末で計画期間の満了を迎えることから、同条例に基づいて、令和3(2021)年度以降の市政運営の指針となる新たな「茂原市総合計画」を策定することとなりました。また、本市は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少対策の柱となる「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27(2015)年に策定しましたが、今後の市政運営にあたっては、人口減少をにらんだ長期的な観点からの取り組みがこれまで以上に重要になることから、総合計画の中に総合戦略を位置付け、一体的な運用を図ることとしました。

今後はこの計画に基づき、これまでのまちづくりの成果も踏まえつつ、市民と市の協働による新たな茂原市の創造に向けた取り組みを進めていきます。

## 第2節 策定の視点

計画策定にあたり留意した点は、次のとおりです。

### (1) 持続可能なまちの実現を見据えた計画

人口減少・少子高齢化に対応するため、「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との一体化を図り、持続可能な市政運営の指針となる計画とします。また、「持続可能な開発目標（SDGs）\*」の視点・考え方を取り入れ、まちづくりを通じてSDGsの達成に貢献できる計画とします。

### (2) 財政状況を踏まえた実効性ある計画

本市の財政状況を踏まえ施策・事業内容について検証し、実効性のある計画とします。

### (3) 進行管理が容易で確実な進捗が図られる計画

計画から予算編成、施策や事業等の推進及び評価、改善までが一体となったPDCAマネジメントサイクル\*を実効性あるものとするため、予算編成や行政評価に連動することを見据えた計画とします。

### (4) 市民への説明責任に配慮した計画

従来の計画体系を見直し、シンプルな構造としつつ、将来都市像－基本政策－テーマ－施策の論理的なつながりを明確にすることで、市民に分かりやすい計画とします。

### (5) 住民参加により策定する計画

「茂原市総合計画策定のための市民アンケート」や「みんなで考える茂原市総合計画策定ワークショップ」を実施するなど、「茂原市まちづくり条例」に基づき、住民参加を重視して策定する計画とします。

## 第3節 計画の期間と構成

茂原市総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」から構成します。

### (1) 基本構想

【令和3（2021）年度～令和12（2030）年度（10年間）】

市政運営の指針となる長期構想であり、将来のありたいまちの姿（将来都市像）を掲げ、分野ごとの基本政策を定めます。

### (2) 基本計画

【前期：令和3（2021）年度～令和7（2025）年度（5年間）】

【後期：令和8（2026）年度～令和12（2030）年度（5年間）】

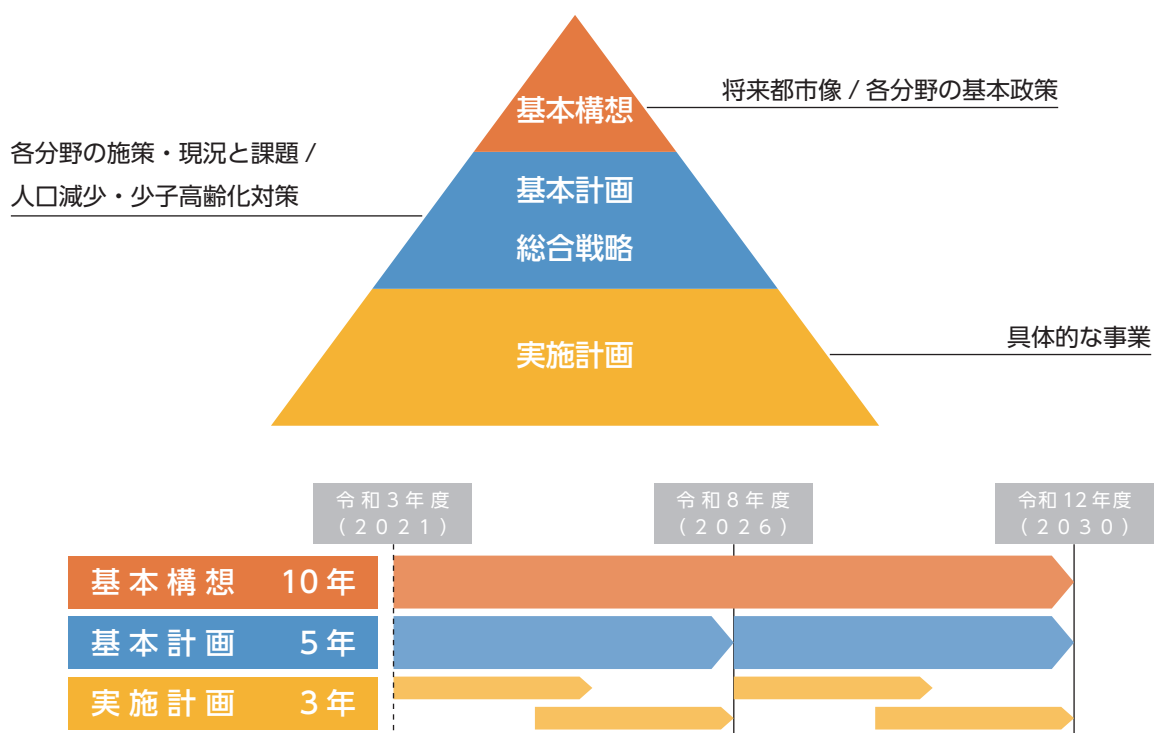
基本構想で掲げる将来都市像を実現するため、各分野における施策の目標や現況と課題、施策の方向性などを示します。

人口減少・少子高齢化に横断的に取り組む施策として、「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を位置付けます。

### (3) 実施計画

基本計画に掲げた施策を推進するための具体的な事業を示します。計画期間は3年間とします。

#### 茂原市総合計画の構成



## 第2章 茂原市の現況

### 第1節 市域、地勢

#### (1) 位置と地勢

茂原市は、千葉県のほぼ中央、九十九里平野の南部に位置する総面積 99.92 km<sup>2</sup>の市で、千葉市、市原市、大網白里市、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町の3市4町1村と接しています。

市の西部は房総台地の裾部にあたり、河川が台地深く入り込んで複雑な谷津を形成しています。市内を一宮川及び支流の豊田川、阿久川、鶴枝川、南白亀川及び支流の赤目川が流れており、これらは標高の高い市西部の台地を源としています。市の東部は標高の低い平坦な沖積平野です。

都心から 60km 圏内に位置しており、平成 25（2013）年の首都圏中央連絡自動車道（圏央道）開通以降、東京・千葉方面、横浜・川崎方面へのアクセスが飛躍的に向上しました。

図表1 茂原市の位置



## 第2節 沿革

### (1) 沿革

茂原市の名称は、平安時代に貴族の藤原黒麻呂が、藻が茂る湿地帯の原野を開拓して私有地(荘園)とした「藻原の荘」に由来しています。

江戸時代になると、現在も続く「六斎市」も開かれ、商都として繁栄しました。また、儒学者の荻生徂徠が少年期から青年期を本納で暮らし、学問の基礎を築いたとされています。

明治時代には、交通の要衝、商業の中心地として、大きな発展を遂げました。その後、昭和27(1952)年に6町村(茂原町、東郷村、豊田村、二宮本郷村、五郷村、鶴枝村)が合併して、市制が施行された後は、戦前から活用されていた、豊富な埋蔵量を誇る天然ガスを利用する企業の進出が相次ぎ、急速な工業化が進みました。昭和47(1972)年には本納町と合併して、現在の市域が形成され、長生・山武・夷隅地域の中核的な都市として発展してきました。また、毎年7月に開催され、県内外から多くの観光客が訪れる「茂原七夕まつり」など、多彩な市民文化も展開されてきました。

その後も国内大手メーカー系列の企業が本社や事業所を構えるなど、中小型パネルや半導体の一大生産拠点となっていました。2010年代には市内工場が閉鎖される事態も発生しましたが、近年は、各メーカーの事業を統合した企業が新たに立地しました。平成25(2013)年に首都圏中央連絡自動車道(圏央道)が開通したことで、首都圏各地へのアクセスが飛躍的に向上し、生産や物流の拠点としての魅力が高まっているほか、平成29(2017)年に「茂原にはる工業団地」の造成が完了し、新たな企業が進出するなど、工業都市として再び脚光を浴びつつあります。

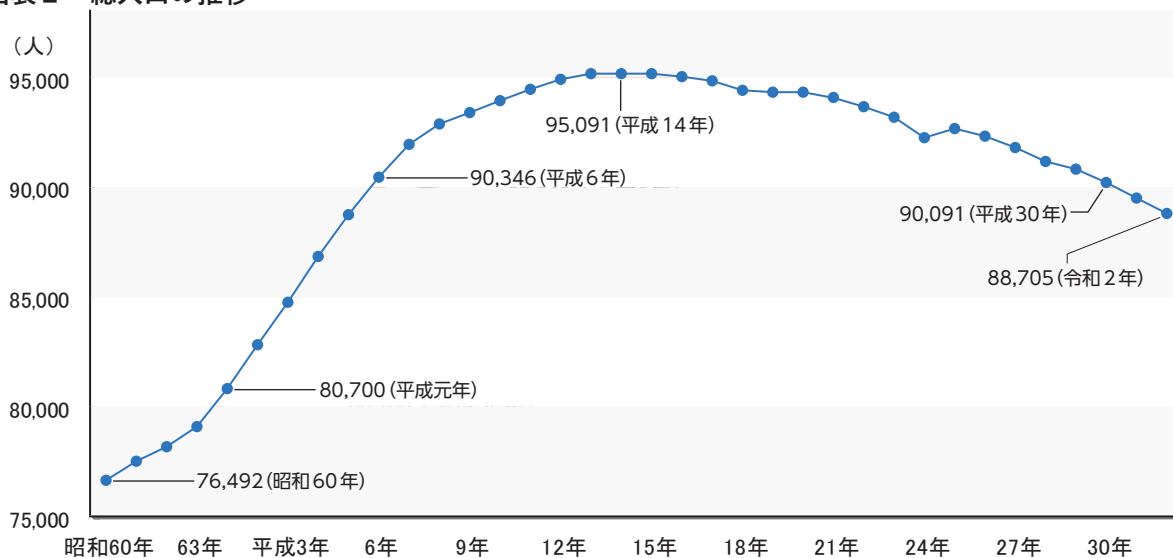
## 第3節 茂原市の人口

### (1) 人口の推移

#### ① 総人口

昭和60(1985)年から平成31(2019)年までの総人口(各年4月1日時点の住民基本台帳人口及び外国人登録人口の合計)の推移を見ると、平成元(1989)年に8万人、平成6(1994)年には9万人を突破しており、当初は一貫して人口増加が続いていたことが分かります。その後も人口は増加傾向にありましたが、平成14(2002)年の95,091人をピークに人口減少に転じました。以降も緩やかな減少を続け、令和2(2020)年は88,705人となっています。

図表2 総人口の推移



S60	S63	H3	H6	H9	H12	H15	H18	H21	H24	H27	H30	R2
76,492	79,015	84,670	90,346	93,319	94,816	95,061	94,328	94,001	92,129	91,646	90,091	88,705

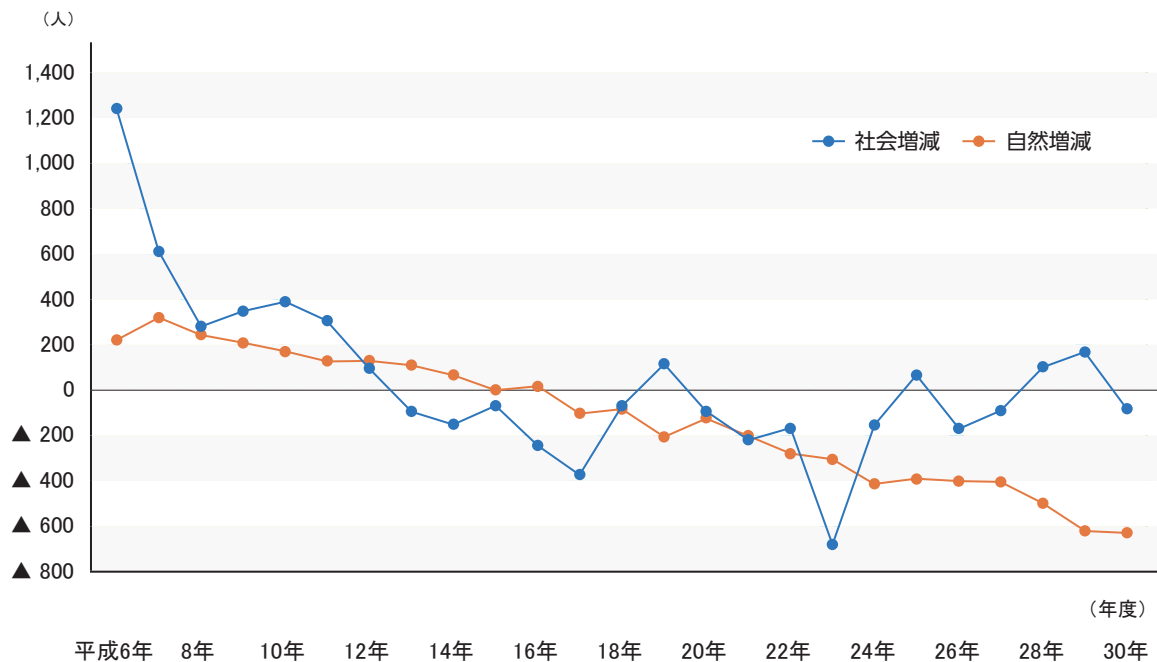
資料：「住民基本台帳人口」「外国人登録人口」(各年4月1日時点、茂原市)

## ②人口動態

人口動態を見ると、平成 17（2005）年以降、出生者数が死亡者数を下回る人口の自然減が一貫して生じています。

一方、社会増減については、年によって逆転は見られるものの、おおむね転入者数が転出者数を下回る社会減の傾向が続いています。

図表3 人口動態の推移



	H6	H8	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
社会増減	1,237	276	385	90	-154	-252	-75	-103	-179	-163	-182	97	-90
自然増減	211	235	159	123	60	9	-89	-132	-287	-422	-408	-506	-640

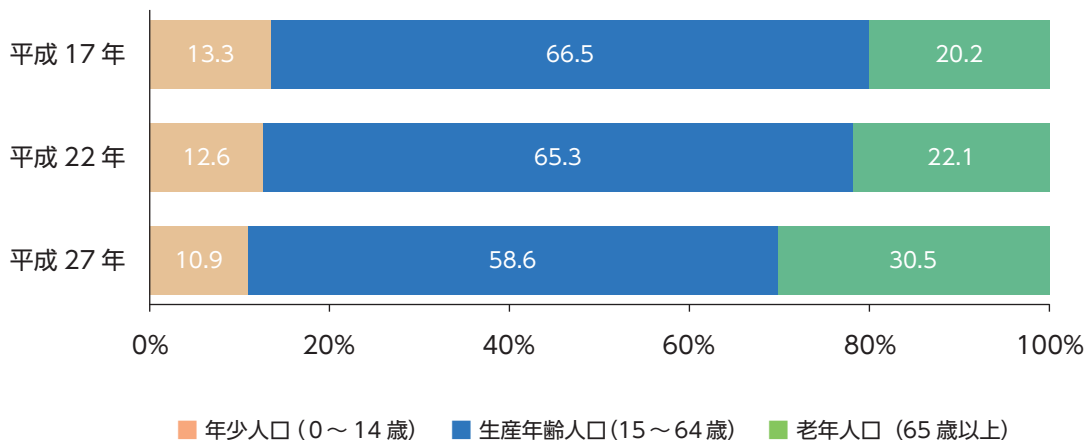
資料：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」（総務省）



### ③年齢3区分別人口比

年齢3区分別人口比の推移（平成17（2005）年～平成27（2015）年）を見ると、年少人口（0～14歳）が13.3%から10.9%へと2.4ポイント、生産年齢人口（15～64歳）が66.5%から58.6%へと7.9ポイント減少する一方、老年人口（65歳以上）は20.2%から30.5%へと10.3ポイント（約1.5倍）増加しており、少子高齢化が進行していると考えられます。

図表4 年齢3区分別人口比の推移



資料：「国勢調査」（総務省）

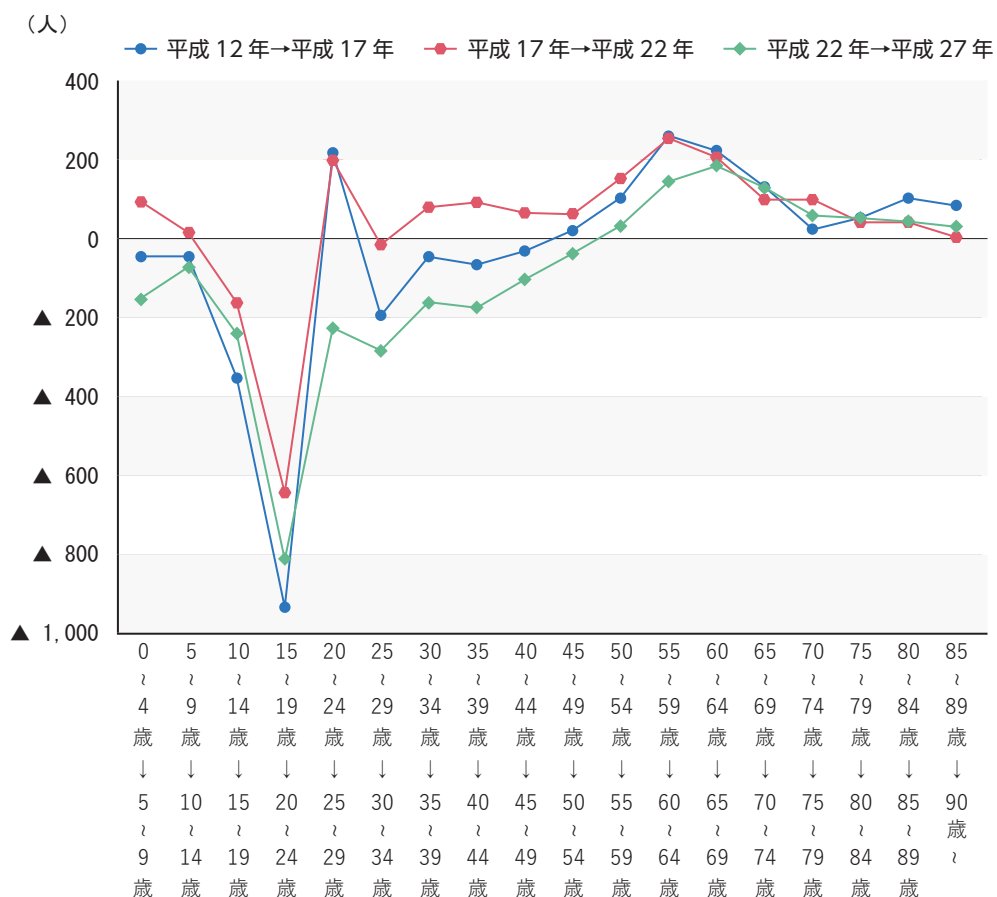
## ④年齢階級別純移動数

年齢階級別の純移動数（転入者と転出者の増減数）を時系列に見ると、平成12（2000）年から平成17（2005）年、平成17（2005）年から平成22（2010）年、平成22（2010）年から平成27（2015）年のいずれの5年間でも、15歳から19歳の減少幅が大きくなっています。進学や就職などで本市を離れる若者が多いとみられます。

20～24歳の純移動数については、平成12（2000）年から平成17（2005）年、平成17（2005）年から平成22（2010）年の各5年間ではプラスになっており、進学や就職などで本市を離れた若者が一定数戻ってきていたとも考えられますが、直近の平成22（2010）年から平成27（2015）年ではマイナスに転じています。

図表5 年齢階級別純移動数の推移

（例）平成12年から平成17年の間には、0～4歳の集団は5～9歳の集団になります（0～4歳→5～9歳）。●の折れ線は、その期間における当該集団の純移動を示しています。



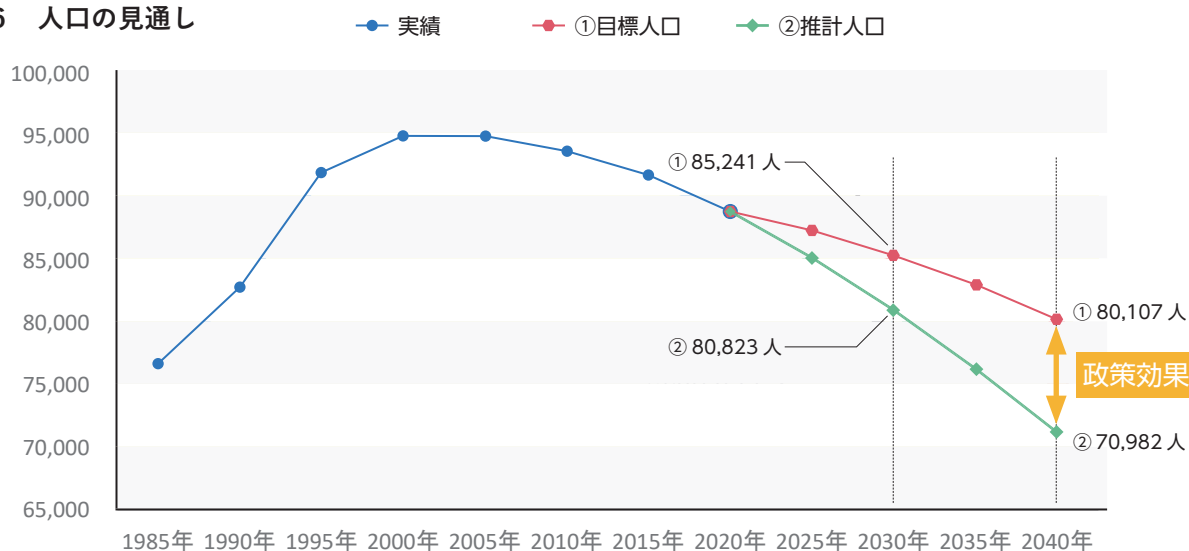
資料：「国勢調査」（総務省）

## (2) 人口の見通し

本市の人口は減少傾向にあり、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）のデータを基に推計すると、このまま何も手を打たなかった場合、令和 22（2040）年には総人口が 70,982 人となり、令和 2（2020）年の 88,705 人から 2 万人近く減ることが予想されています。

この見通しに対し、子どもを産み育てやすい環境づくりや、本市への移住・定住の促進など、新たな人の流れの創出に向けた取り組みを進めて行くことで、基本構想の目標年次である令和 12（2030）年に 85,000 人、更に 10 年後の令和 22（2040）年に 80,000 人の人口を維持することを目標とします。

図表 6 人口の見通し



実績	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020				
	76,492	82,681	91,855	94,816	94,749	93,554	91,646	88,705	①目標人口	87,195	85,241	82,859
								②推計人口	85,014	80,823	76,064	70,982

資料：「住民基本台帳人口」「外国人登録人口」（各年 4 月 1 日時点、茂原市）、『日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）』（社人研）等を基に作成

**(2030 年の目標人口) 85,000 人**

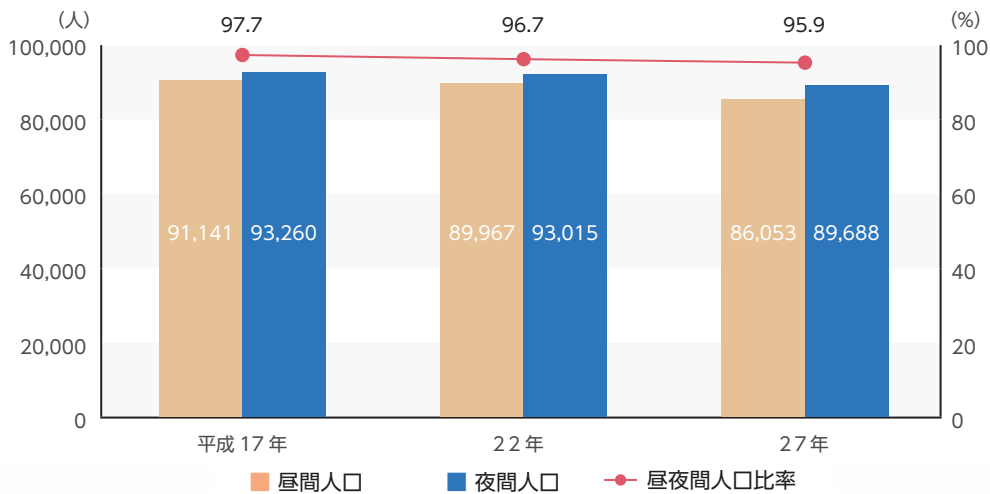
## 第4節 茂原市の産業

### (1) 産業構造

#### ① 昼夜間人口比\*と自市内就業割合

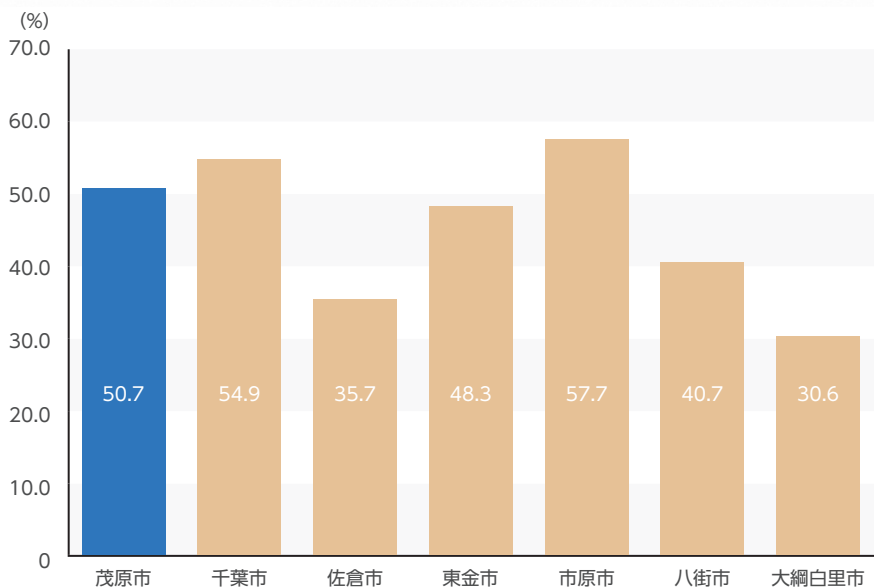
昼夜間人口比の推移を見ると、平成17(2005)年から平成27(2015)年までの10年間で、97.7%から95.9%とほぼ横ばいとなっています。また、自市内就業割合(ある市に常住する就業者のうち、その市で従業する人の割合)を周辺自治体と比較すると、本市は市原市(57.7%)、千葉市(54.9%)に次ぐ水準となっており、就業の場としての拠点性を有していると言えます。

図表7 昼夜間人口の推移



資料：「国勢調査」(総務省)

図表8 自市内就業割合の比



資料：「国勢調査」(総務省)